

卷頭言

第84巻の発刊にあたり



羽生田智紀*

本年度第84巻となる本誌は、特殊鋼をはじめとする材料とその製造、利用に関する技術の発展と普及を目的とし、さらには産業界や学術界の発展に貢献することを使命としています。技術者の育成にも何らかの形で貢献できていることを願っております。本号では九州大学の高木先生に人材育成に関する随想をご寄稿いただきました。あらためて人づくりの重要性を感じる次第です。

さて本号の特集は自動車などに使われている構造用鋼です。構造用特殊鋼は目立たない存在ですが、機械の内部で動力を伝えたり、構造を支えたりする重要な部品に使われています。地味な存在でありながら、鉄鋼材料の科学や技術がたくさん詰まった材料であり、これからも社会ニーズに対して進化を続けていく基盤材料です。

超円高や海外景気の減速などの影響を受けたわが国の経済は、今年に入り回復の基調にあるようです。しかし、新興国経済の成長鈍化や欧州経済の不安など、グローバル経済の不透明さは今後も予断を許さない状況です。一方で長期的には、自動車や社会インフラ産業は新興国の人口増加や都市化を背景として、確実に成長すると考えられています。

これらの世界市場の成長に対して、日本の製品や技術を世界に広げることは世界への貢献である半面、新興国の追い上げによる競争の激化や、日本企業の海外進出に伴う国内製造業の衰退が懸念されることも事実です。優れた技術を活かすビジネスモデルの構築が日本企業の課題であると思います。一方、社会の成熟に伴い、地球環境や健康・安全に対する関心が高まっており、このような世界共通の課題に対して、事業活動自体が共通価値 (Shared Value) を創出することが求められています。日本が得意とする省資源・省エネルギーをはじめとする環境技術は、まさにこの社会共通価値であり、これに貢献する材料やその製造技術の開発は技術者冥利に尽きると感じております。

現在、当社は知多工場の製鋼プロセスの抜本的な合理化に対し、戦略的な投資を行っております。生産能力の増強や戦略商品群の品質・コスト競争力向上だけでなく、エネルギーの削減や多様化にも対応する革新的な技術を採用し、地球環境に優しい製鋼プロセスを構築します。

本号でご紹介する構造用鋼に関する技術は、いずれも省資源・省エネルギー、CO₂排出削減への貢献を目的とするものです。社会的価値創造の基盤となる材料技術として、読者の皆様のご参考になれば幸いです。

*大同特殊鋼(株)研究開発本部副本部長